

「親子ものづくり防災教室」の講師を務めました

～ 身近な材料で災害時に役立つものづくり体験をしました ～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：柿木 一宏・東京海上日動火災保険株式会社専務取締役）では、8月3日（土）滋賀県東近江市立永源寺コミュニティセンターが主催する「親子ものづくり防災教室」への講師派遣依頼を受け、5組の親子（小学生8名、保護者5名）とスタッフ総勢20名に対し、近畿支部防災博士（※）の増田晶子さんと近畿支部茨木職員が講師を務めました。

最初に災害についての話をした後、地震発生後にとるべき行動についてクイズ（10問）を交え考えてもらい、災害時に役立つ物（スリッパ、お皿、スプーン）を身近な材料でつくる体験をしてもらいました。その後、アルファ米とスナック菓子にお湯を注ぎ、「ごはん」と「ポテトサラダ」として、各自が作成したお皿とスプーンにラップをかけ、試食してもらいました。

次いで、1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災について、茨木職員が自宅で体験した当日の様子や被害の状況を写真とともに説明しました。説明を通じて、なぜ身近な材料で災害時に役立つ物を作ったのかがわかってもらえたと思います。

締めくくりとして、東近江市永源寺地域のハザードマップについて防災博士の増田さんより注意点を説明し、茨木職員から小学生のぼうさい探検隊について実施を呼びかけました。

なお、当日は東近江市のケーブルテレビの取材もあり、8月7日（水）に放映されました。

参加児童と保護者からは「阪神淡路大震災は私が生まれる前にあった出来事でしたが、どれだけ大変だったかが話を聞いてよくわかった。スリッパをベッドの下に置くようにしたい。お皿やスプーンなど身近な物でいろいろなことに活用できることがわかった。初めてアルファ米を食べたが普通の食事と変わらないことに驚いた。日頃から準備しておくことが大切だと思った。家族で良く話し合っていざというときに備えたい。」などの感想がありました。

当支部では、今後も防災博士や関係機関・団体等と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。

※防災博士とは…近畿地区における安全・防災活動に対し、積極的に協力いただける方を「防災博士」として委嘱しており、近畿支部防災博士は地域のリーダーとして安全・防災活動に貢献しています。

※ぼうさい探検隊…https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/bousai_sp/



新聞紙スリッパの折り方を説明



作成したお皿とスプーンで試食



阪神淡路大震災当日の様子を説明